

# 平成29年度「学校評価」総括表

徳島県立海部高等学校

## ○学校経営基本方針

徳島県教育基本目標に従い、生命を大切にする心や地域に根ざした心を育み、一人一人の人権を尊重し、確かな学力、豊かな心、健やかな体を備え、社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成する。

## ○本年度重点課題

1. 学力向上の推進及び進路指導の充実
2. 生徒指導の徹底 及び 保健安全・環境教育の充実
3. 特別活動及び海部寮の充実
4. 人権教育の充実
5. 特別支援教育・教育相談の充実
6. 開かれた学校づくり
7. 危機管理体制の充実

## 基本的なコンセプト

校訓「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

「絆」 → 心のふれあいを大切にして、豊かな人間性を育てる。

「学」 → 多様な個性と能力を伸ばし、生きる力を育む。

「夢」 → 夢を持ち、自己実現に向けて努力する人間を育てる。

## ○総括評価表（「総合評価」における評定の基準…A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
1 学力向上の推進及び進路指導の充実	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	<b>評価指標</b> ①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→85%以上  教員による公開授業週間→年2回 学力向上委員会→年4回	<b>評価指標の達成度</b> ①生徒による授業評価アンケート→1回(11月) 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→95%【平成28年度93%】  教員による公開授業週間→1回(10/23~10/28) 学力向上委員会→4回	総合評価 (評定)  <b>B</b>  (所見) ①~⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。	①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。また、指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために、各課・各教科会の充実が望まれる。  ②朝の読書の効果もあつて、貸し出しの目標冊数に近づけることができる。  ③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。  ④11月の調査における家庭学習時間が極端に低かった点で、改善の余地がある。	①各教科会を定期的に開き、DCAサイクルに基づいた見直し・改善に努める。  ②図書館への入館者数が少ないので、図書館だよりに加え、興味を引くような企画を考え発信していく。  ③学校行事の精選を考えていく必要がある。  ④学年団との連絡を密にし、常日頃から根気強く、習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。
	②読書活動の推進	②図書室の年間貸し出し冊数→3,000冊以上 年間を通じての朝の読書の実践  図書館だより→年3回、全校一斉読書会→年1回	②図書室の年間貸し出し冊数→2,670冊(学級文庫を含む。3/9現在)  図書館だより→3回、全校一斉読書会→1回			
	③授業時数の確保	③授業の実施率→法定授業時数の82%以上	③授業時間数の確保に努め、学校行事を精選したため実施率が昨年度よりやや上がったが、評価指標を達成できなかった。 授業の実施率80.4%(1・2学期間)【平成28年度79.4%】			
	④学習習慣の定着	④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上  生活実態調査実施→年5回、週末課題→年20回以上	④2時間以上学習者→36%  生活実態調査→5回、週末課題→20回以上実施できた。			

1 学力向上の推進及び進路指導の充実

⑤自ら学習する態度の育成	⑤補習出席率→90%以上  自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90%以上	⑤補習出席率→90%以上達成できた。  自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日94.8%達成できた。		⑤校内テストについては、早い時期からの学習を徹底させ、得点率の向上を図る。また、プリント学習についてはクラスの状態に応じて、学び直し学習を取り入れていく必要がある。	⑤教科会・学年団との連携を図る。
⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥進路講演会→年2回以上  保護者対象進路説明会→年2回以上  生徒への進路ガイダンス実施→年2回以上  教員の企業・大学・短大・専門学校等への視察訪問→年2回以上	⑥進路講演会→3回  保護者対象進路説明会→2回  生徒・保護者への進路ガイダンス→3回  企業・大学等への視察・訪問→7回	(所見) ⑦達成できた。	⑥保護者対象の進路説明会の出席率については、数値目標の再考が必要である。	⑥進路への意識を高揚させるため、保護者対象の講演会を開催する。また、定期的に進路情報を発信するなどして、参加人数の増加に努めたい。
⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進学希望者校外模試全員受験→90%以上	⑦進学希望者校外模試全員受験→92.4%	⑦達成できた。	⑦校外模試の結果を生徒個々にしっかりとフィードバックしていくことが求められる。	⑦全員受験の徹底化と受験後の見直しを徹底させる。
⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制を図る。三者面談→年1回以上 進路希望調査→年4回実施、進路検討会→年3回以上	⑧三者面談→多い生徒で4回、少ない生徒で1回 進路希望調査→3回、進路検討会→5回	⑧達成できた。	⑧職員間の情報共有と三者の進路に関するさらなる理解と意思統一が求められる。	⑧進学検討会については、職員の研修の場としての意識付けも必要である。
⑨就職指導の充実	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年2回以上 三者面談→年1回以上 個人面談→年2回以上 三年模擬面接練習→5回以上 三年就職補習の出席率→90%以上	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→2回 三者面談・個別面談の実施→3回 模擬面接練習→5回 就職補習の出席率→90%	⑨模擬面接では全ての先生が協力し、充実した面接練習ができた。	⑨求人数は増加傾向であるが、一部の職種に偏っている。適性等を十分考慮し、慎重な進路決定をさせていくべきである。また、就職内定後の指導もしっかり行うことが求められる。	⑨進路情報の適切な処理を行い、生徒保護者が進路決定において判断しやすく、意識が高まるような情報を提供していきたい。低学年より、進路意識を高める指導に取組む。
⑩各種検定の合格率の上昇	⑩全商検定(簿記、情報処理、ビジネス文書、商業経済、珠算・電卓) →2級合格率50%以上、3種目1級合格率10%以上	⑩情報ビジネス科検定合格率 2級合格率58%、1級3種目合格者13%	⑩達成できた。	⑩各検定の1級の難易度が高くなってきている。受験させる検定の見直しを考えている。	⑩授業に関連する各種検定の学習指導計画の見直しと補習体制の合理化を検討していきたい。
①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	活動計画	評価指標の実施状況	(所見)		
①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	①-1教科・科目において、生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。 ①-2授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など、テストを生かした指導方法の改善を図る。 ①-3公開授業週間を充実し、授業力向上を目指す。	①教科・科目において、授業評価アンケートを実施し、生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を1月に設定し、授業力向上を目指した。	①授業アンケートを実施することにより、生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。	①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。	①授業評価アンケート・公開授業週間の充実を図る。

1 学力向上の推進及び進路指導の充実

②読書活動の推進	②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をモットーに朝の読書の充実を図る。	②学級文庫を設置するなどして、朝の読書の充実を図った。	②学校評価アンケートで、朝読ができていないと答えた生徒は96%。本を忘れてきた生徒は、学級文庫を利用することで読書ができています。	②部活動で忙しい生徒や読書習慣のない生徒にとっては、朝読だけが唯一の読書の時間であるため、しっかりと取り組ませたい。	②朝読の時間を継続する。
③授業時数の確保	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努めた。	③授業の確保に努めたが、学校行事が増加したため、実施率が昨年度より下がった。	③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。	③さらなる学校行事の精選をしていく必要がある。
④学習習慣の定着	④全ての生徒の学習習慣の定着を図るために、きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施し、課題の工夫と実施の徹底を図る。	④英・数・国を中心に週末課題を実施し、課題提出の徹底を図った。	④⑤週末課題やプリント学習の自身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。	④学年やクラスによって提出率に差がある点について改善の必要がある。	④～⑩保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。
⑤自ら学習する態度の育成	⑤-1普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を、根気強く呼びかける。個人面談で学習の必要性を説得していく。 ⑤-2プリントの中身について、難易度に考慮し、モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。	⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために、生活実態調査を実施するなど、意識の高揚に努めた。また、自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが、質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やす工夫をしたい。		⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行っていく必要がある。	
⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥早くから広報活動に取り組み、説明会が意義あるものとなるよう工夫する。	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。	⑥⑦⑧保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。	⑥多様な進路選択に対応できる説明会になるようにしなければならぬ。 ⑦多様な進路選択に対応していくことが求められる。	
⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進学希望者に、校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。	⑦校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。		⑧保護者への情報提供や進路についての啓発活動が必要である。	
⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制をつくる。	⑧面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。	⑨保護者相談では卒業生の動向や訪問企業の特徴などの説明をすることができた。	⑨家庭相談が不十分で、就職から進学に急に変更するケースが多かった。2年次までに就職か進学かを決定するよう指導していかなければならない。	⑨生活習慣の改善や礼儀作法、学習態度等、学力と並行して就職に必要な生き方に関する指導を強化していきたい。
⑨就職指導の充実	⑨-1 PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報(就職先・求人数等)を充実させる。 ⑨-2 就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の情報提供機能を充実させる。就職補習を充実させる。就職試験対策を強化する。	⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施することができた。進路情報(就職先・求人数等)を充実させることができた。	⑩進路指導体制の充実により、少しずつ合理的になってきている。	⑩求人数が増加したが、競争倍率も高くなったりディスカッションなどが取り入れられたりしたため、様々な指導が必要となってきている。	⑩就職にも学力が必要であり、補習以外でも自ら学習するような習慣づくりを確立させたい。
⑩各種検定の合格率の上昇	⑩能力に応じた各種検定を積極的に受験させ、合格できるよう支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。	⑩授業に関連する各種検定の指導計画の見直しと、補習体制の強化に努めた。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
2 生徒指導の徹底及び保健安全・環境教育の充実	①基本的な生活習慣の確立  ②身だしなみ指導の徹底  ③規範意識の向上  ④安全教育の徹底  ⑤保健安全指導の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標</div> ①自主的にあいさつができる生徒→80%以上 遅刻→1日あたり1人以下  ②全体での服装・頭髪検査→年12回以上  ③規範意識の向上を図るために立哨指導を実施する。 立哨指導日数→年110日以上  ④自転車車体検査→年3回以上 交通安全講話→年1回 交通安全教室→年4回 携帯電話安全教室→年1回  ⑤保健便りの発行→年8回 薬物乱用防止教室、救命講習会→各年1回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標の達成度</div> ①自主的にあいさつできる生徒の割合→85% 遅刻→1日あたり0.83人  ②全体での服装・頭髪検査実施回数→12回  ③交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→107日  ④自転車車体検査実施→3回 交通安全講話→1回(牟岐署交通課) 自動車学校入校指導→4回[86名] 携帯電話安全教室→1回 人の波運動→2回  ⑤保健便りの発行→7回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→1回(8月)	(評定)  <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div> (所見)  ①②基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒がいる。全教員で粘り強く指導していく必要がある。 ③～⑤講演会や啓発活動を通して、生徒の意識向上に努めることができた。	①～⑤各HR・各学年間において、一貫した指導体制(温度差を生じない)が築かれていない。  ①服装・頭髪指導は、これからも粘り強く指導する。説明を十分にし、保護者の理解や協力を得る。  ②生徒指導件数を減少させ、さらに規範意識を高める指導が必要である。  ⑤家庭連絡文書(保健便り・食育便りなど)の有効活用に努める。	①～⑤生徒指導については、説明を十分に行うことで保護者の理解・協力を得るように努める。  ①～⑤地域の方々への意見・要望を真摯に受け止め、その期待に応えられる学校であり続けるため、より一層の「生徒指導」の充実を推進する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> ①生徒会によるあいさつ運動の実施、始業時間の遵守や言葉づかい等、マナーについて指導を徹底させる。  ②違反者については、担任による常時指導(家庭連絡を含む)、学年や生徒課、保護者とも連携し、身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善を図る。  ③交通ルール・マナーの遵守について、生徒会や教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。  ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止や携帯電話でのトラブル防止に努める。  ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> ①校訓である「絆」「学」「夢」に沿った学校生活の満足度→88%  ②違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。地域保護者からの信頼度→88%  ③教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。  ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。牟岐署と連携し、人の波運動を2回実施した。  ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
3 特別活動及び海部寮の充実	①ボランティア活動の充実  ②学校行事の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標</div> ①小・中・高連携ボランティア一年1回以上 特別支援学校との交流学习一年2回以上 自主的ボランティア活動→1人年1回以上 (地域のボランティア, 収集活動, 募金活動など)  ②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動一年10回以上  海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上  ③部活動顧問会議一年3回以上, 入部率→95%以上  ④舎監会議一年2回, 寮運営協議会一年1回, 寮生会議一年5回, 寮生保護者会一年1回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標の達成度</div> ①小・中・高連携ボランティア一年1回 特別支援学校との交流一年3回 自主的ボランティア活動→1人年1回以上47% (地域のボランティア, 収集活動)  ②地域ボランティアの方と生徒会役員のあいさつ運動一年9回  海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→95%  ③部活動顧問会議一年3回, 入部率→96%  ④舎監会議一年2回, 寮運営協議会一年10回以上, 寮生会議一年3回, 寮保護者会一年1回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">総合評価</div> (評定)  <b>B</b>  (所見)  ①②生徒会役員による校内ゴミ拾い, 運動部生徒による清掃活動など継続的自主活動が見られた。 ③部活動においては部員数を保ちながら, 積極的な取り組みを続けている。運動部文化部共に四国大会以上の成績を残すことができた。	①②③特別活動における満足度とともに, 安全に生徒が取り組むことができるものへとなってきた。  ②あいさつ運動の継続。各学校行事の内容検討と充実を図る。  ③顧問会議を定期的に開催し, 教員間のコミュニケーションを図る。  ③部活動を通して, 豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため, さらに近隣中学校との連携を深め, 大会での実績を残すことができるようにする。	①小・中・高連携ボランティア活動・特別支援学校との交流を継続する。自主的ボランティア活動への積極的参加の促進を図る。  ④自立した生活ができるよう教員のサポートを充実させる。また, 生活環境を整え, 美化に努める。
	③部活動の活性化  ④円滑な寮の運営	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> ①豊かな心を育むとともに, 地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめ, ボランティア活動を積極的に行うことのできるリーダー性を養う。  ②「あいさつの励行」を積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。  ③魅力ある学校づくりに向け, 技術・技能, 仲間意識の向上に取り組む, 昨年度以上の成績をあげる。  ④寮生自身が, 自ら寮生活のマナーやルールを守り, 自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> ①海南駅を季節に合わせて飾り付けを行った。また, 地元の小中学生をリードし, 地域の美化活動を実施することができた。  ②「あいさつの励行」について生徒会で話し合い, 積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会の種目や運営について, 工夫して取り組んだ。  ③中学校との合同練習や大会を主催することで魅力ある学校, 部活動への取り組みを行った。卓球個人において全国大会出場, 男子バスケットボール部において県新人大会優勝を成し遂げた。  ④寮生自身が, 自ら寮生活のマナーやルールを守り, 自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。	④日直・舎監・部顧問・寮生の保護者・寮運営協議会, それぞれが協力して寮の運営にあたり, 寮生が自立できる環境作りに取り組んだ。		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
4 人権教育の充実	<p>①人権教育の推進</p> <p>②人権教育啓発行事の充実</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①人権学習HR活動→年5回</p> <p>②-1人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→75%以上 各人権教育啓発行事→保護者参加10名以上</p> <p>②-2人権教育教職員研修→年3回</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①同和問題を中心に、学年統一のテーマを5回設定し、生徒人権意識調査より生徒の関心のある個人権課題の学習を取り入れた。 人権学習HR活動→5回</p> <p>②-1人権・道徳教育映画「アオギリにたくして」生徒満足度→87% 人権・道徳教育講演会「人権ってなに？」講師 徳島県人権教育指導員 弘瀬理沙氏 生徒満足度→80%</p> <p>②-2 人権教育教職員研修→4回</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>①②今年度は、関係機関と連携した人権教育研修会を行い、社会の現状から深く学び、教育方法のあり方を探求した。</p> <p>②人権教育を実効あるものにするためには、学校・地域・家庭関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要となる。情報提供を行うことや、意見・要望を把握し、時代の変化に対応した人権教育を展開するよう努めなければならない。</p>	<p>①生徒主体の人権学習HR活動を進めるために、体験的参加型学習を取り入れている。生徒人権推進員を中心とした活動が進んでいる。</p> <p>②-1生徒人権教育推進委員会で作品を決め、生徒の興味関心に応じた映画会となるよう計画している。</p> <p>②-2外部講師を招き、差別の実態から深く学び、課題を明らかにする研修を重ねている。また、時代の変化や指導要領改訂に対応できるような研修を重ねている。</p> <p>①各HRで生徒の状況に応じた、学習を展開するため、資料やワークシートを各HR担任が工夫している。</p> <p>②-1保護者や地域の方々の参加は少ない。地域との連携を深めるためにも校内人権行事の参加を求めるとともに、教職員が地域の人権学習会に参加するなど、よりよい教育環境づくりをすすめている。</p> <p>②-2教職員研修の充実のため、各種研究大会に参加し、実践等を学んでいる。大会での学びは、校内研修で報告し、周知している。</p>	<p>①年間5回の人権学習HR活動では、様々な人権課題全てを学習できないため、各教科・科目で取り扱える人権課題については、各教科・科目で指導計画を立て行うことを今後も継続し、毎年確認する必要がある。</p> <p>②-1各人権教育啓発行事を行うにあたって、事前学習を行う時間を設け、より効果的な機会にする必要がある。</p> <p>②-2教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容・方法の工夫・改善をすすめる。</p> <p>①効果的な教育実践を創造するため、学習教材の開発や、モデルとなる活動を取り入れる必要がある。</p> <p>②-1人権教育啓発行事の保護者・地域の方への案内方法を工夫する必要がある。(海陽町教育委員会や分館・公民館との連携を深める。)</p> <p>②-2すべての教職員が、校内以外の人権研修会に年1回以上参加することを目標とした。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>①HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(『安心・自信・自由』)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。</p> <p>②-1人権・道徳教育映画会や人権・道徳教育講演会等各人権教育啓発行事の内容を充実させ、人権教育啓発行事を保護者に案内し、参加を求める。</p> <p>②-2徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究大会の研修成果等の共有を図る。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①文部科学省から出されている「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)実践編」をもとに、体験的参加型授業を展開し、一人ひとりの生徒が人権共存の考え方を理解できるように工夫した。</p> <p>②-1人権・道徳教育映画「アオギリにたくして」保護者参加申し込み8名(参加8名)。人権・道徳教育講演会「夢の実現のために人権感覚をみがこう」保護者参加申し込み4名(参加4名)</p> <p>②-2徳島県人権教育研究大会1名参加 徳島県高等学校人権教育研究大会4名参加 人権教育フォーラム5名参加 海陽町分館巡回人権学習会4名参加 海陽町人権学習会10名参加</p>			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
5 特別支援教育・教育相談の充実	①特別支援教育の充実  ②教育相談の充実	<p style="text-align: center;">評価指標</p> <p>①校内研修会→年2回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回</p> <p>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</p>	<p style="text-align: center;">評価指標の達成度</p> <p>①校内研修会→2回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回</p> <p>②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→5回</p>	<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>B</b></p>	<p>①②「気になる生徒」については、教育相談学年部会から特別支援・不登校対策委員会へ上げ、教員間の共通理解を図ることができている。</p> <p>①-1特別支援教育指導補助員を置き、習熟度別授業やチームティーチングを展開した。</p> <p>①-2 校内研修「カウンセリング的関わりについて」「発達障がいのある生徒の保護者へのアプローチの仕方について」を実施した。</p> <p>②教育相談週間では、気になる生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。</p>	<p>①②外部機関との連携を図りながら、更に支援体制を整える。</p> <p>①-1チームティーチングがよりいっそう効果的なものになるように工夫を行う。</p> <p>①-2授業のユニバーサル化を目指し、学習教材の工夫を行う。また、本校の実態に応じた研修を計画する。</p> <p>②-1生徒が気軽に相談に来られるような工夫をする必要がある。</p> <p>②-2悩みアンケートに記入されていることを面談などで詳しく把握し、早期に対応する。</p>
		<p style="text-align: center;">活動計画</p> <p>①習熟度別授業の展開やチームティーチングなどの実施、また、すべての生徒に分かりやすい授業のユニバーサル化に取り組む。</p> <p>②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。</p>	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、職員全員の共通理解を図ることができた。</p> <p>②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。</p>	<p>(所見)</p> <p>①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。</p>		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
6 開かれた学校づくり	①地域に根ざした運営	<p style="text-align: center;">評価指標</p> <p>①PTA総会の出席率→30%以上 海高祭への参加→500人以上 ホームページアクセス→年40,000回以上 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回</p>	<p style="text-align: center;">評価指標の達成度</p> <p>①PTA総会の出席率→23% 海高祭への参加→600名以上(PTAバザーを含む) ホームページアクセス→年82,712回 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回</p>	<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>B</b></p>	<p>①PTA総会の内容や案内方法について見直すことも必要である。ホームページアクセス数は昨年並であった。</p>	<p>①保護者への情報公開の充実を図る。</p> <p>①今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。</p>
		<p style="text-align: center;">活動計画</p> <p>①保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。</p>	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>①情報公開については昨年以上に充実させることができた。PTA研修旅行の参加者は24名、PTAバザーの参加者も昨年を上回った。</p>	<p>(所見)</p> <p>①PTA総会の出席率は、23%で目標数値には届かなかった。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
7 危機管理 体制の 充実	①危機管理意識の 育成	<div data-bbox="465 220 674 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価指標</div> <p>①-1防災避難訓練→年5回 小・中・高・地域合同避難訓練→年1回</p> <p>①-2防災講演会→年1回 各種防災フォーラム・研修会などに参加</p> <p>①-3普通救命講習→年1回</p> <p>①-4防災遠足→年1回</p> <p>①-5防災HR活動→年2回</p>	<div data-bbox="922 220 1261 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価指標の達成度</div> <p>①-1防災津波避難訓練→年5回 小・中・高・地域合同避難訓練→なし 町主催津波避難訓練→年1回</p> <p>①-2防災講演会→年2回 防災クラブ交流イベントに参加 防災教育の生徒満足度→96% 【平成28年度93%】</p> <p>①-3普通救命講習→年1回</p> <p>①-4防災遠足→年0回（雨天のため講演会に変更）</p> <p>①-5防災HR活動→年1回</p>	<div data-bbox="1453 236 1617 268" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">総合評価</div> <p>(評定)</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>	<p>①現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。</p>	<p>①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。</p>
		<div data-bbox="465 668 674 700" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動計画</div> <p>①防災・減災教育啓発に力を注ぎ、防災意識の持続と高揚を図るとともに、危機管理意識や将来における各地域の防災リーダーとしての自覚を促す。</p>	<div data-bbox="922 668 1312 700" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動計画の実施状況</div> <p>①南部県民局・海陽町役場・海陽町社会福祉協議会などの関係諸機関と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付け、将来の防災リーダーとしての自覚を促すため校内では年5回、防災講演会は年2回実施した。また、今年度は6名の生徒が「高校生防災士」の資格を取得することができた。高校生防災士を中心にファミリー体験学習推進プロジェクトや災害ボランティア入門講座に参加した。普通救命講習は1年生全員受講し、救命技能を有することを認定された。</p>	<div data-bbox="1453 668 1617 700" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(所見)</div> <p>①様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。</p>		









|

\_\_\_\_\_





|